

# 倫 理

(解答番号  ~ )

**第1問** 人間の存在や価値に関わる次の問い(A~C)に答えよ。(配点 34)

A 孫と祖父母の会話文Ⅰ～Ⅲを読み、次ページ以降の問い(問1～3)に答えよ。

(資料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)

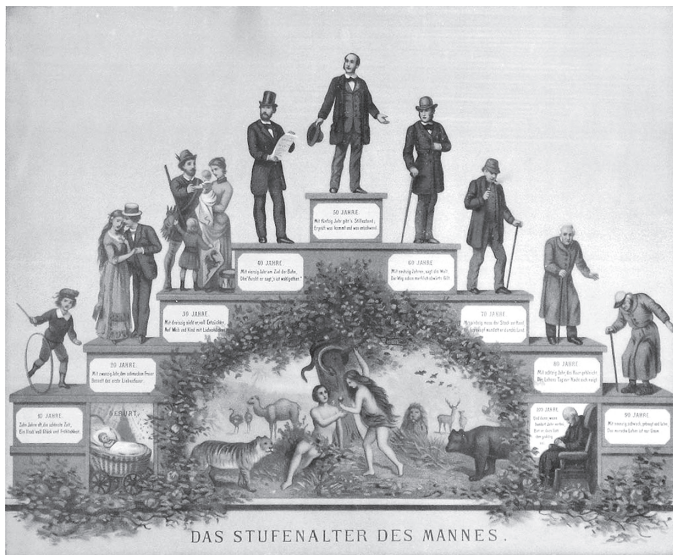
## 会話文Ⅰ

孫：ネットで、面白い絵(資料X・Y)を見つけたんだけど、知っている？

祖父：ああ、仕事でヨーロッパに行ったとき、同じような印刷物を博物館で見たことがあるよ。19世紀頃に描かれた人生の段階図で、男性版と女性版があるんだよね。

祖母：各段に、10歳、20歳、30歳などと10年ごとの姿が描かれていて、いずれも頂点は50歳のようなね。

## 資料X



「男性の人生の段階図」

## 資料Y



「女性の人生の段階図」

問 1 会話文 I および資料 X・Y から読み取れることとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 1

- ① 階段状に人生の昇降が描かれ、男性版も女性版も、各段階で現代においても誰もが経験する普遍的な出来事が描かれていることがわかる。
- ② 階段状に人生の昇降が描かれ、男性版と比較して女性版には子孫を育てる役割が多く描かれていることがわかる。
- ③ 50歳以降においては、男性版も女性版も、家族の人数が増えていく様子が描かれ、キリスト教の世界観が描かれていることがわかる。
- ④ 50歳以降においては、女性版と比較して男性版は、死に至るまで下降するものとして描かれ、介護される様子が多く描かれていることがわかる。

# 倫理

## 会話文Ⅱ

孫：今日、「倫理」の授業でマズローの欲求の階層について学んで、下から生理的欲求、安全の欲求、所属と愛情の欲求、自尊の欲求、自己実現の欲求がピラミッド状に描かれている図を見たよ。

祖母：でも、マズローの『人間性の心理学』には、そういう図は描かれていないよね。マズローは、欲求があらわれる順序がいつも固定されているわけではなくて、ある欲求が、それより低次の欲求が満たされていないのに、あらわれることがあるとも言っているのよ。

祖父：例えば、「武士は食わねど、<sup>たかようじ</sup>高楊枝」とかもそうかな。お腹がすいているのに、<sup>みえ</sup>見栄をはるということで。

祖母：もう少し詳しく言うとね、低次の欲求が強制的に抑圧された場合や、低次の欲求を自発的に放棄した場合でも、高次の欲求があらわれることがあると書いているのよ。

祖父：心理学の法則は、例外も多いから、気をつけないといけないね。

問 2 下線部の具体的な事例として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 

2
---

- ① 他者と関わり親密な関係を築きたいという欲求が満たされると、他者から認められたいという欲求が生じるようになる。
- ② 芸術家や発明家が、寝食の時間を惜しんで創作活動や開発に没頭し、創造力を発揮しようとする。
- ③ 高校生の中には、勉強の成績よりも部活動での活躍で賞賛されることを望む人がある。
- ④ 周りの人たちから認められたいという気持ちが満たされると、そのことが自己実現への欲求の基礎となる。

(下書き用紙)

倫理の試験問題は次に続く。



## 倫 理

### 会話文Ⅲ

孫：人生の段階図やマズローの欲求の階層と比べてみて、おじいちゃんとおばあちゃんの人生はどう？

祖父：いろいろなことがあったねえ。でも、そのおかげで、若かった頃よりもいろいろなものの見方ができるようになったかな。

祖母：生涯にわたる成長というと、発達心理学者のコールバーグが提唱した道徳的判断の発達段階も面白いわよ。コールバーグはピアジェからも影響を受けていて、より広く他者の視点に立って公平な判断を下せるようになる過程を、発達段階としてあらわしたのよ。表にしてみると、次のようになるかしら。

第1段階	他者の利害関心を考慮しないで、罰を受けたり物理的な被害を引き起こしたりしないことを正しいと考える。
第2段階	自他間で利害関心が異なることを認識した上で、それぞれが自分自身の利害関心を満たすように行為することや、自他間で対等な交換を行うことを正しいと考える。
第3段階	共有される合意や期待が個々人の利害関心に優先することを認識して、友人や親、きょうだいといった自分自身の役割に対して、身近な人たちが一般的に期待する行動をとることを正しいと考える。
第4段階	第3段階における対人間の合意と、社会全体を見通す観点とを分けて捉え、法など現に広く認められている義務をはたすことや、社会や制度に貢献することを正しいと考える。
第5段階	多数派の意見にかかわらず、社会契約の観点から生じる責務に従うことや、生命や自由といった、いかなる社会でも支持されるべき非相対的な価値や権利を守ることを正しいと考える。
第6段階	自らが選択したものとしての普遍的な公正の原理や、人格としての人間の尊厳を尊重することを正しいと考える。

孫：例えば、子育てや介護への生活支援として、行政による公助に加えて地域住民同士の相互扶助、ボランティアも求められている状況に当てはめると、①支援に協力しなくても怒られないなら自分は関係ないという考え方は第1段階になるね。

祖父：②ボランティアをして相手には喜んでもらえても自分は楽しくないから支援に協力しないと考えるなら、これは第2段階だね。

孫：③親が積極的に関わっている支援活動に自分も協力するのは、欲しいものを買ってもらえるからだというのは、第3段階の考え方だよ。

祖母：④公助と相互扶助とで生活支援が成り立っている現状を理解して、地域社会を守るために支援に携わるべきだと第4段階では考えられるわね。

祖父：地域住民同士の生活支援が定着していく中で、一部の人たちにその負担が集中したときなどには、基本的な自由が皆に保障されるように制度の在り方を一から考え直す視点も必要になるよ。そうやって第5段階から先も見えていくと、人生やるべきことはまだたくさんあると強く感じるよ。

祖母：まさにプロダクティブ・エイジングね。ちなみに、この発達段階は年齢に基づくものではないから、おじいちゃんに限らず、ほとんどの人は発達の途上ということになるのよ。

問3 下線部①～④は、会話文Ⅲ中の表に示されている各段階に典型的な考え方を例示しようとしたものである。例示として適当でないものを、上の①～④のうちから一つ選べ。 

3
---

## 倫理

B 「徳」について述べた次の文章を読み、下の問い(問4～6)に答えよ。

アリストテレスは、<sup>Ⓐ</sup>徳の一つである思慮を技術と対比させて次のように言っている。

技術とは、【 X 】理論を備えた、制作に関わる魂の状態である。

(中略)

思慮とは、人間にとっての善悪に関わる行為を行うところの、道理を備えた魂の【 X 】状態である。

(アリストテレス『ニコマコス倫理学』より)

ここに明らかなように、技術は制作に、思慮は行為に関わるが、アリストテレスは、これら制作と行為を一括して観想と区別する。

次に、同じ「【 X 】」という語句が、技術については「理論」を、思慮については「(魂の)状態」を、それぞれ修飾している。<sup>Ⓑ</sup>このことは技術と思慮との違いを明らかにしていると考えられる。実際、アリストテレスは、思慮ある人は何が健康によいのかを考えるというよりも、よく生きることについて考える点で優れた人であると述べている。

問4 下線部<sup>Ⓐ</sup>について考察した哲学者たちの思想の記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 

4
---

- ① ストア派は、宇宙を支配する理法を理解する賢者のみが徳を獲得できると考え、「自然に従って生きよ」と説いた。
- ② ソクラテスは、人が徳を獲得すれば財産や名誉も手に入れることができると考え、魂の世話の重要性を説いた。
- ③ アウグスティヌスは、キリスト教徒に必要なのは四元徳ではなく三元徳のみであると考え、神の愛の貴さを説いた。
- ④ プラトンは、人が幸福であるためには徳が必須であると魂の三部分説に基づいて考え、「隠れて生きよ」と説いた。

問 5 【 X 】に入る語句について、生徒 Y と生徒 Z が考えて話している。次の会話文を読んで、**あ** ～ **え** に入る語句の組合せとして最も適当なものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 **5**

生徒 Y：私は **あ** だと思う。そうすれば「**あ** 理論」が、技術を支える学問のことを指すと思えるから。

生徒 Z：「魂の **あ** 状態」というのは何を意味しているのだろう？ **い** を入れたらどうかな？

生徒 Y：うーん、そうすると「**い** 理論」というのがどうもねえ。かといって「美しい」も適切ではないし。あっ、「**う**」かも！

生徒 Z：なるほど。「**う** 理論」は技術を支える学問を意味し、「魂の **う** 状態」というのもありそうだね。……でも「魂の **う** 状態」とは **え** のことになるのかな？ **え** は完全な徳だというのがアリストテレスの見解だったけど、思慮は **え** とは言えないよね。

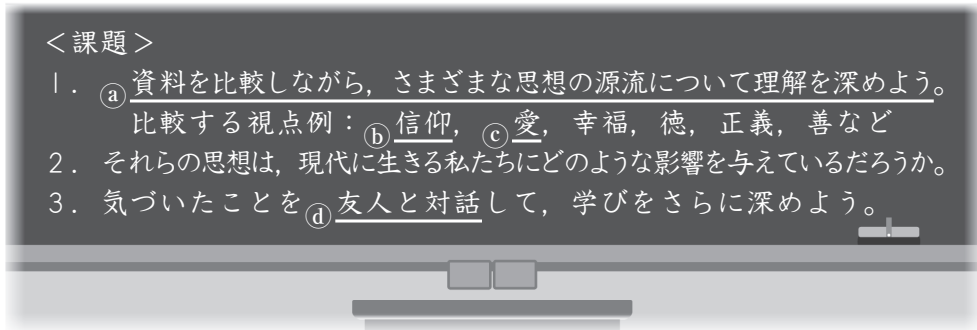
	あ	い	う	え
①	正しい	真である	善い	全体的正義
②	正しい	真である	善い	部分的正義
③	真である	善い	正しい	全体的正義
④	真である	善い	正しい	部分的正義
⑤	善い	正しい	真である	全体的正義
⑥	善い	正しい	真である	部分的正義

問 6 下線部⑥をよく理解している発言として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 **6**

- ① 彼は着実に仕事をこなす職人だから、地域の複雑な課題をきっと解決してくれるよ。
- ② 彼女は腕のいいシェフなので、見習いに調理法を身につけさせることができるだろう。
- ③ 私はアーティストとして若くして有名になったから、今後も活躍できにきまっている。
- ④ あの卓越したドラママーが人生の悲劇を乗り越えられたのは、ドラマの技だけによるはずがない。

## 倫理

- C 次の板書は、学習のまとめとして設定された課題を示したものである。板書を読み、下の問い(問7～10)に答えよ。(資料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)



- 問7 下線部aの課題にあなたが取り組むとする。次のあなたの発言は、課題について調べたことや分かったことをまとめた発表の一部である。これを読み、下の(1)～(4)に答えよ。

### あなたの発言

私は、「倫理」の授業で **ア** に興味をもち、調べてみたところ、それに関して書かれている資料として「 **イ** 」という記述を見つけました。さらに、 **ア** を説いている教えを調べてみると、 **ウ** も分かりました。これらのことから、 **エ** と考えました。

- (1) あなたの発言の **ア** に入れる語句を、次の①～④のうちから任意に一つ選べ。 **7**  
なお、(1)で①～④のいずれを選んでも、次ページ以降の(2)～(4)の問いについては、それぞれに対応する適当な選択肢がある。

- ① 天国
- ② 空
- ③ 非攻
- ④ 梵我一如

(2) (1)で選んだ  について、あなたの発言の  に入る記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① いや、まったくのところ、おまえたちは審判を嘘だといっている。しかし、おまえたちの上には監視役たちがいる。気高い書記がいる。彼らは、おまえたちの所業をよく知っている。敬虔な者は、至福の中に住むが、放蕩者は、業火の中に住み、審判の日、その中で焼け滅びる。そこから抜け出すこともかなわぬ。
- ② 一人の人間を殺害すると、それを不正義として、きっと一つの死刑の罪があてられる。(中略)百人を殺害すると百の不正義をかさねたことになって、きっと百の死刑の罪が適用されるわけである。(中略)ところが、他国を攻撃するという大きな不正義を働くものについては、それを非難することを知らず、かえって追従してそれを誉めたたえて正義であるといっている。
- ③ 芽や諸行などの諸存在に自性がもしあるとすれば、すでにそれはそのものとして現に存在しているのである。なんの必要があってそれに対する因や縁が考えられるのであるか。つまり、諸行や芽が現に存在するものとしてなりたっているならば、それを再び成立させるために、無明や種子などがその因や縁として設定される必要はないはずである。
- ④ この世の万物は最高原理を本質としている。それは真にあるもの、それはアートマンである。この世のすべてはこのアートマンである。この万有はブラフマンにほかならない。この世の万物はアートマンにほかならない。この世において何物も、多様には存在しない。そして、もしこのようではないとすれば、一者を認識することによってすべての認識が達成されはしないのである。

## 倫 理

- (3) (1)で選んだ **ア** について、あなたの発言の **ウ** に入る記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 **9**

- ① この教えは、封建制度が崩壊し始め、諸侯が国の秩序安定をはかり富国強兵に努めた時代の中国で説かれたもので、古い習慣や自説を固く守り続けることを意味する故事成語がこの教えから生まれたこと
- ② この教えは、現世での生き方が来世の在り方を決定すると説き、多神教の宗教としてインドにおいて発展したもので、その後、民間信仰等と融合して、現在のインドに根づいている宗教に変容したこと
- ③ この教えは、争いが絶えず、貧富の差が大きかったアラブ社会において、唯一神の前での信者の平等、同胞愛、社会的な正義を説き、生活すべてにおいて聖典に従うよう信者に求めたこと
- ④ この教えは、戒律の解釈の違いから諸部派に分かれ、その部派の在り方に対する批判から改革運動が起こった際、自利行と同様に利他行も重視する立場を生み出したこと

- (4) (1)で選んだ **ア** について、あなたの発言の **エ** に入る記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 **10**

- ① 人間は平等に神の裁きを受けて死後の運命が決定されると、この教えでは捉えていることがわかりました。<sup>こんとん</sup>混沌とした社会だからこそ、神の言葉のままに生きようとしたのだろう
- ② すべての物は自らを成り立たせる本質などなく、他から成り立たせられるものであるに過ぎないのではないかと思いました。また執着から離れることも必要だと思いますが、そうすることは非常に難しい
- ③ 宇宙の根源の原理と自己の永遠不滅の実体とが一体となった境地に達することで、苦から逃れ安らぎを得られるとしたのだと思いました。そのために厳しい修行や禁欲の生活を必要としたのだろう
- ④ なぜ世界から戦争がなくならないのか疑問をもちました。戦争がなくなり平和な世界が来るように、すべての人々を愛する無差別で平等な愛が求められているのではないか



問 8 下線部⑥に関連して、次のノートは、生徒が「倫理」の教科書を参考にしながら、ユダヤ教、キリスト教、イスラームを特徴づける事項について整理したものの一部である。ノートの三つの宗教を共通に特徴づける事項の  に入る語句として適当なものを、下の①～⑧からすべて選べ。

<p>ユダヤ教を特徴づける事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選民思想</li> <li>・ 律法(トーラー)</li> <li>・ 嘆きの壁</li> </ul>	<p>キリスト教を特徴づける事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 世界宗教</li> <li>・ 神の子</li> <li>・ 『新約聖書』</li> </ul>	<p>イスラームを特徴づける事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 世界宗教</li> <li>・ 六信五行</li> <li>・ 『クルアーン(コーラン)』</li> </ul>
<p>三つの宗教を共通に特徴づける事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全知全能の神</li> <li>・ <input type="text" value="X"/></li> </ul>		

- |          |        |        |       |
|----------|--------|--------|-------|
| ① 祈り     | ② 四書五経 | ③ 預言者  | ④ 多神教 |
| ⑤ 神からの啓示 | ⑥ 出家   | ⑦ 徳治主義 | ⑧ 一神教 |

## 倫 理

問 9 下線部㉔に関連して、生徒が、愛に関する言葉について調べ、それに関わる資料を提示した。次の(1)・(2)に答えよ。

- (1) 愛に関する言葉の説明を、次の①～④のうちから任意に一つ選べ。 12  
なお、(1)で①～④のいずれを選んでも、次ページの(2)の問いについては、それぞれに対応する適当な選択肢がある。

- ① この言葉はもともと愛の神を意味していた。完全なもの・価値あるものを求める愛で真の知恵を愛し求める原動力となるものである。
- ② この言葉は無差別・無条件の神の愛を意味する。すべての人間、善人も罪人に対しても、分け隔てなく、注がれるものである。
- ③ この言葉はあらゆる命への普遍的な愛のことである。苦悩する衆生に差別なく向けられるものである。
- ④ この言葉は本来、親と子の間にわき起こる自然な愛情を意味する。社会的な関係の中で広げられていくものである。

(2) (1)で選んだ愛に関する言葉の説明と関連の深い資料として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 13

- ① いかなる生物生類であっても、<sup>おび</sup>怯えているものでも強剛なものでも、<sup>ことごと</sup>悉く、長いものでも、大きなものでも、中くらいのものでも、短いものでも、微細なものでも、粗大なものでも、目に見えるものでも、見えないものでも、遠くに住むものでも、近くに住むものでも、すでに生まれたものでも、これから生まれようと欲するものでも、一切の生きとし生けるものは、幸せであれ。
- ② 人間の生まれつきが、孝行で柔順だというのに上役にさからいたがるものは、まず珍しいね。その上役にさからいたがらないものが内乱をおこしたという例は、まだ聞いたことがない。りっぱな人間は根本をたいせつにする。根本がかたまると道は自然にできる。
- ③ だれであれ、自分の半身を探し求めるような人たちは恋しているのだという説が語られていますね。しかし、私の説が主張するところでは、恋が求めるのは半分でも全体でもないのです。(中略)人々が恋するものは、善きもの以外には何もありません。(中略)恋とは、善きものが永遠に自分のものになることを求めているのです。
- ④ ある人が羊を百匹持っていて、その一匹が迷い出たとすれば、九十九匹を山に残しておいて、迷い出た一匹を捜しに行かないだろうか。(中略)もし、それを見つけたら、迷わずにいた九十九匹より、その一匹のことを喜ぶだろう。

## 倫理

問10 下線部④に関連して、生徒Yと生徒Zが『莊子』の寓話をもとに話をしている。

次の『莊子』の寓話と、生徒Y・生徒Zの会話文を読み、～に入る語句の組合せとして最も適当なものを、次ページの①～⑧のうちから一つ選べ。

南海の帝みかどの名は儵しゆくといい、北海の帝の名は忽こつといい、また、中央の帝の名は渾沌こんとんといった。儵と忽とは、ときどき渾沌の治める地では出会っていたが、渾沌は彼らを大変手厚くもてなした。そこで、儵と忽とは渾沌の徳に報いることを相談して、「人間にはだれにも目・耳・口・鼻の七つの孔\*があつて、見たり聞いたり食べたり呼吸したりして楽しんでいる。ところが、このものだけは持っていない。ひとつ孔を掘ってやろう」ということになった。一日に一つの孔を掘って、七日目に第七の孔を掘ったとたんに、渾沌は死んでしまった。

(莊子『莊子』より)

\*孔：穴の意味

生徒Y：なんかとても不思議な話だね。

生徒Z：「古典」の授業で勉強したけれど、「倫理」の授業で莊子の思想を勉強してみても、改めてどうして渾沌は死んでしまったのか考えてみたんだ。

生徒Y：どうして渾沌は死んでしまったのかな。

生徒Z：まず、南海の帝、儵は「すばやい」、北海の帝、忽は「たちまち」という意味で、時間の流れを表しているんだ。これらはのたとえなんだ。中央の帝、渾沌は「カオス」だからのたとえだよ。

生徒Y：儵と忽は渾沌の徳に報いようとしたんだよね。でもそれが裏目に出たんでしょ。

生徒Z：そうなんだ。儵と忽の行為は、確かに渾沌の徳に報いようとした仁の実践とみることができるでしょ。でもそれが原因で渾沌は死んでしまったんだよ。

生徒Y：私にも分かって来たよ。この寓話は **iii** ということと関係があるみたいだね。では、渾沌を死なせないようにするにはどうしたらよかったかな。

生徒Z：それは **iv** を加えないことじゃないかな。

生徒Y：なるほど、そういうことね。話している間に理解が深まった気がするよ。ありがとう。

	i	ii	iii	iv
①	人間の有限性	未分化な自然	道家の儒家批判	無用な人為
②	人間の有限性	未分化な自然	儒家の道家批判	無用な人為
③	人間の有限性	秩序づけられた自然	道家の儒家批判	有用な人為
④	人間の有限性	秩序づけられた自然	儒家の道家批判	有用な人為
⑤	自然の無限性	未分化な自然	道家の儒家批判	無用な人為
⑥	自然の無限性	未分化な自然	儒家の道家批判	無用な人為
⑦	自然の無限性	秩序づけられた自然	道家の儒家批判	有用な人為
⑧	自然の無限性	秩序づけられた自然	儒家の道家批判	有用な人為

## 倫理

**第2問** 日本人にみられる人間観、世界観、宗教観などの特質に関する次の問い(A・B)に答えよ。(配点 24)

A 次の留学生と先生の会話文を読み、69ページ以降の問い(問1～4)に答えよ。  
(資料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)

留学生：この週末、「日本の宗教美術」という展覧会を見に行ってきました。とても面白かったです。

先生：それはよかったですね。何か印象に残った作品はありましたか。

留学生：はい。展覧会のチラシのこの図(図1)なのですが、これは那智の滝を描いているのです。滝は自然物でしょう。どうして宗教美術の展覧会に滝の絵が展示されているのでしょうか。とても不思議に思いました。

先生：それは、 だと思いますよ。

留学生：ああ、そういうことですか。それからこちらの図(図2)ですけど、ずいぶんいろいろな仏や菩薩の姿が描かれていますね。私の出身地である では、 が信仰されていて、仏像というと釈迦牟尼仏がほとんどですから、とても驚きました。

先生：この図にはいろいろな仏や菩薩が描かれていますが、このような図を といって、仏の悟りの完全な世界を表していると言われてます。一番外側には、人喰い鬼まで描かれていることもあるのですよ。

留学生：えっ。仏の完全な世界に何で鬼が必要なのですか。

先生：それは、あらゆるものを排除せずに、仏の真理の一つの現れとして意味づけようとする考え方を表しているのだと言われてます。

留学生：同じ仏教と言っても、いろいろですね。現代の日本人の宗教意識ももっと知りたいです。

先生：それなら、面白い統計資料(資料X・Y)がありますよ。

留学生：とても興味深い資料ですね。 では、9割以上が の信者ですからずいぶん違うなあと思いますが、こちらの資料によると ということですよ。

先生：その通りです。若い人でもお正月に初詣に行ったり、お盆にお墓参りに行ったりするのは、そのいい例でしょうね。



图 1

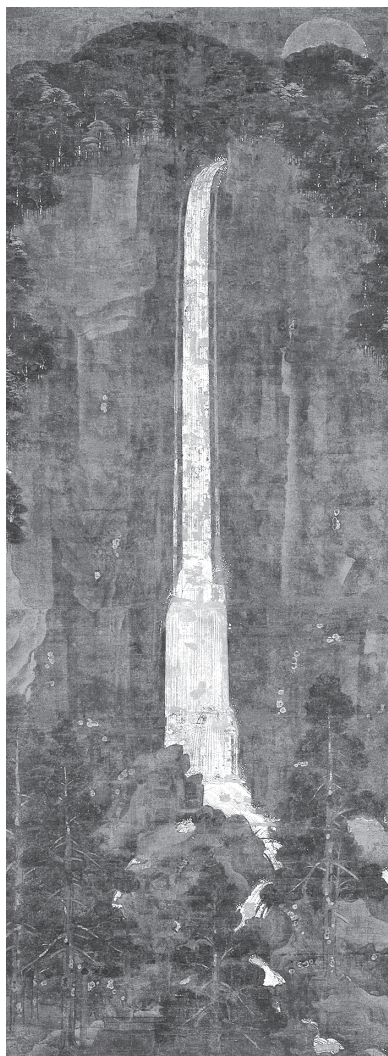
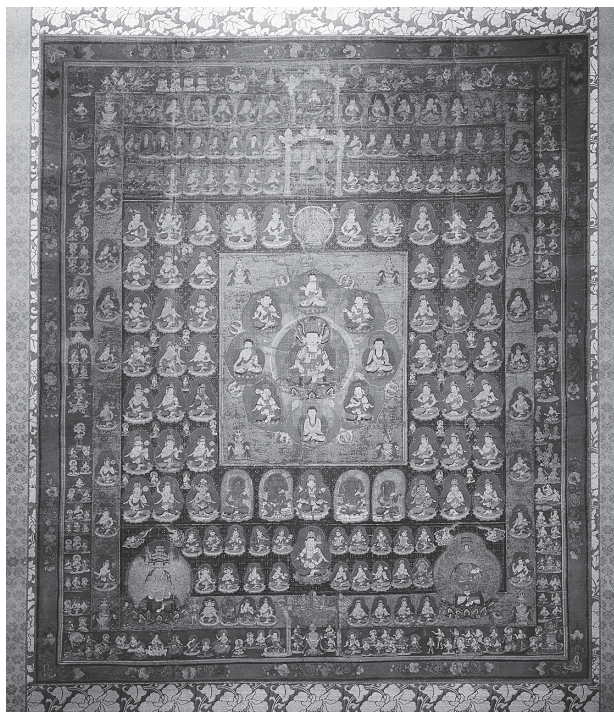


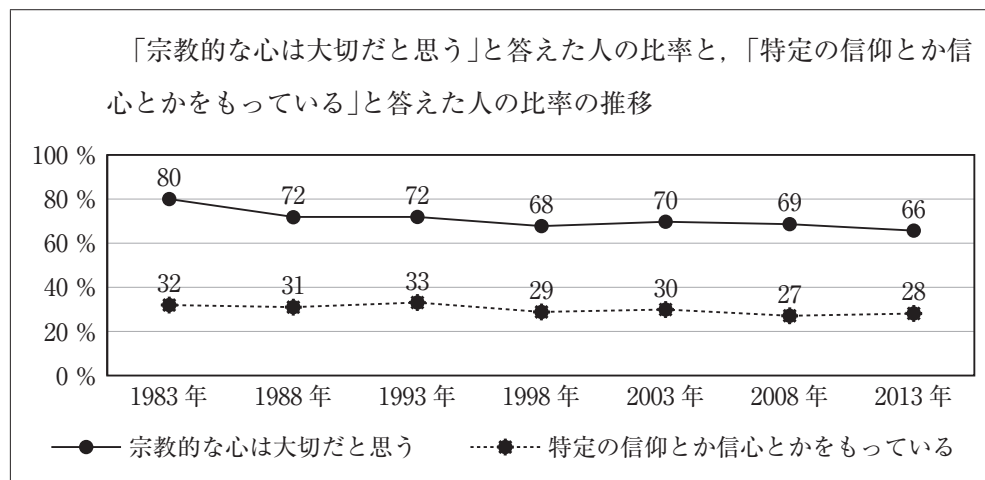
图 2



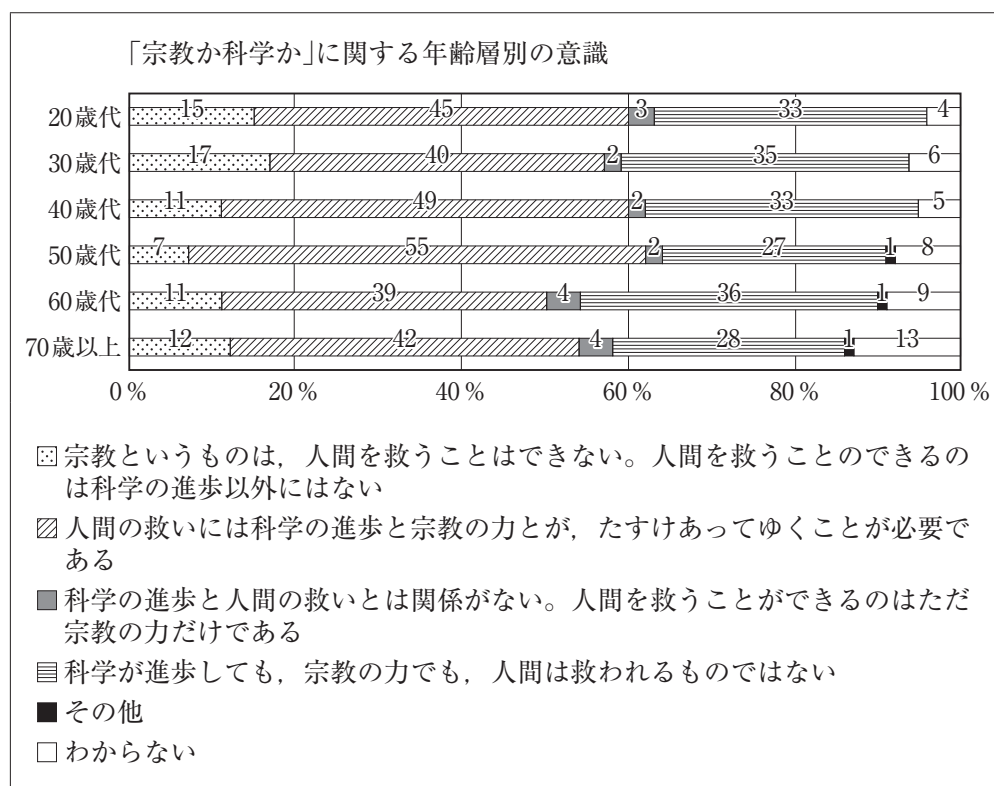


## 倫理

### 資料X



### 資料Y



注：資料Yの調査は2013年に実施。

出典：資料X・Yともに統計数理研究所「日本人の国民性調査」(2013年)より作成。

問 1  に入る説明として適当なものを、次の①～④のうちから二つ選べ。  
ただし、解答の順序は問わない。  ・

- ① この滝そのものが御神体だから
- ② この滝が「祀<sup>まつ</sup>る神」であると同時に「祀られる神」であるから
- ③ 清らかな滝の水が、古来、被造物としての神聖さの象徴だったから
- ④ 日本では古来、自然物が神格化されてきたから

問 2  ・  に入る語句の組合せとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。

- |   | <input type="text" value="b"/> | <input type="text" value="c"/> |
|---|--------------------------------|--------------------------------|
| ① | モンゴル                           | 大乘仏教                           |
| ② | チベット                           | 大乘仏教                           |
| ③ | タイ                             | 大乘仏教                           |
| ④ | モンゴル                           | 上座部仏教                          |
| ⑤ | チベット                           | 上座部仏教                          |
| ⑥ | タイ                             | 上座部仏教                          |

問 3  に入る語句について、その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① この図は、臨終来迎の儀式を執り行うために用いられた。
- ② この図に描かれた像は皆、中央にいる大日如来の分身である。
- ③ この図の作成方法は、『山家学生式』の中で詳しく述べられている。
- ④ この図は、末法思想が広がるにつれ盛んに描かれるようになった。

## 倫 理

問 4 会話文の趣旨を踏まえ、に入る説明として最も適当なものを、次の

①～④のうちから一つ選べ。

- ① 人間の救いには宗教の力が必要であると答えた人の割合は、20歳代が最も多い
- ② 人間の救いには科学の力が必要であると答えた人の割合は、20歳代よりも70歳以上の方が少ない
- ③ 特定の信仰とか信心とかをもっている人は3割程度だが、宗教的な心を大切にする人はそれより多い
- ④ 特定の信仰をもっている人の中には、宗教的な心を大切にしない人もいる

B 日本における外来思想や文化の受容とその展開に関して、次の問い(問5～7)に答えよ。(資料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)

問5 次の写真は、中国などから日本に伝わり、日本で独自に展開した仏教の坐禅の様子を表している。坐禅の背景にある考え方をa・bから、その考え方を表す資料をア・イからそれぞれ選ぶとき、組合せとして最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 20



#### 考え方

- a 仏の力によってのみ浄土で救済される。
- b この世でみずから修行することで悟ることができる。

#### 資料

- ア 善人なをもて往生をとぐ、いはんや悪人をや。しかるを世のひとつねにいはく、悪人なを往生す、いかにはんや善人をや。
- イ 仏道をならふといふは、自己をならふなり。自己をならふといふは自己を忘るるなり。自己を忘るるといふは、万法に証せらるるなり。

- ① a－ア      ② a－イ      ③ b－ア      ④ b－イ

## 倫理

問 6 次の文章は、中国などから伝わり、江戸時代の日本で独自に展開した思想に関連するものである。この文章の著者が受容した中国などから伝わった学問をあ・いから、この文章の著者が主張したことをX・Yからそれぞれ選ぶとき、組合せとして最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 21

礼と云<sup>いふ</sup>ものは、先代帝王の定めおかれた事<sup>ことなり</sup>也。「承天之道」とは、天は尊く地は卑し。天はたかく地は低し。上下差別あるごとく、人にも又君はたふとく、臣はいやしきぞ。その上下の次第<sup>わけ</sup>を分て、礼儀・法度と云ことは定めて、人の心を治められたぞ。

### 学問

あ 朱子学      い 陽明学

### 主張

X 形式的な礼儀や身分秩序を重視する考え方を批判し、心の内面と実践を重視する考え方を主張した。

Y 封建的身分秩序を思想的に根拠づけ、常に心の中に敬をもつ心の在り方を主張した。

① あ—X

② あ—Y

③ い—X

④ い—Y

問 7 次の文章は、和辻哲郎がヨーロッパ留学を終え、日本の伝統に注目しつつ、西洋思想と向き合う中で、人間をどのような存在として捉えていたのかを示すものである。この文章から読み取れる和辻の人間観と共通する観点を含む見方として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 22

倫理学を「人間」の学として規定しようとする試みの第一の意義は、倫理を単に個人意識の問題とする近世の誤謬<sup>こびゆう</sup>から脱却することである。この誤謬は近世の個人主義的人間観に基づいている。(中略)個人主義は、人間存在の一つの契機に過ぎない個人を取って人間全体に代わらせようとした。この抽象性があらゆる誤謬のもととなるのである。

(和辻哲郎『倫理学』より)

- ① 個的な人間存在はロゴスによる実践を行う者であり、人と動物や植物とを分けるのは、まさにロゴスに基づく卓越性としての道徳であるという見方。
- ② 人は生産によって特徴づけられ、生産は初めから社会的であるのだから、孤立的存在としての人がある発展段階において社会を作るのではなく、人が人になったときすでに社会的であるという見方。
- ③ 実践哲学の中心には善意志があるとし、自分の行為の原則が常に普遍性を持つように行為せよとする定言命法に従って自己の意志の自律をはかるという見方。
- ④ 人は自然状態においては互いに連絡を持たないアトムであって、しかもそれぞれが欲望を持つために闘争は必然であるとし、闘争による害悪を避けるために外的な全体性として国家が形成されるという見方。

## 倫理

### 第3問 人間と社会の在り方に関する次の問い(A～C)に答えよ。(配点 24)

A 次の文章は、「自己の在り方を考える」というレポート課題に取り組むための手がかりとして、先生が生徒たちに紹介したものである。この文章を読み、次ページ以降の問い(問1～3)に答えよ。(資料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)

多くの人にとって、自己(自分)は重要な意味をもっている。自分の喜びや苦痛に無関心でいられる人はいないだろうし、実際、①そのつど判断し、行動しているのは自分にほかならないと思われている。だが、自己が何者であるのかは必ずしも自明ではない。それどころか、自己の在り方は環境によって変わる。例えば、②技術は自己の在り方に様々な影響を及ぼしている。望遠鏡や自動車の発明は③私たちの身体を拡張するし、メディアの発達<sup>④</sup>は私たちの内面に大きな影響を及ぼす。さらに、この考え方を押し進めれば、自己をどのようなものと捉えるのかということすら、そのつどの環境の中で変化していると考えられることもできる。環境の変化は自己の在り方について再考する機会となるのである。



- 問 1 下線部②に関連して、ピコ・デラ・ミランドラは次のように述べている。次の文章中の【 X 】に入る語句を考え、その語句を入れた際に正しい解説となる文として適当なものを、下の①～④のうちから二つ選べ。ただし、解答の順序は問わない。 23 ・ 24

他のものたちの本性は定められており、われわれが前もって定めた法則によって制限されている。しかし、お前(人間)はどんな制限にも服していないため、お前は、私がお前を委ねることにした【 X 】によって、自分のためにお前の本性を定めることになるのだ。

(ピコ・デラ・ミランドラ『人間の尊厳について』より)

- ① エラスムスは、人文主義の立場から人間の【 X 】を否定し、神に従うことを説いた。
- ② アウグスティヌスは、【 X 】によって悪に傾かざるをえない人間の姿を捉え、神の恩寵に頼ることを説いた。
- ③ スピノザは、人間の【 X 】を否定し、世界をつらぬく必然性を認識することを説いた。
- ④ マキャヴェリは、運命に抗しようとする【 X 】を尊重し、君主の倫理的徳に基づく統治を説いた。

## 倫理

問 2 下線部⑥に関連して、先生は、新しい技術の登場がものの見方や感じ方を変えてしまうことがあるとして、次のⅠ～Ⅲの絵画を例に用いて、78ページのア～ウの説明を加えた。それぞれの絵画と説明の組合せとして最も適切なものを、78ページの①～⑥のうちから一つ選べ。 25

Ⅰ



デュシャン「L. H. O. O. Q.」(1919)

II



ジェリコ「エプソムの競馬」(1821)

III



モネ「サン・ラザール駅」(1877)

## 倫 理

- ア 写真の露出時間が短縮され、一瞬が画像として定着されるようになると、以前の人々が自然と感じていたのとは違った見方がなされるようになった。
- イ 社会に新しい技術が導入されることによって、これまでになかった暮らしや風景が出現し、そこに美が感じられるようになった。
- ウ 工業による大量生産が可能になることによって、作品を生み出す芸術家の役割そのものが主題化されるようになった。

	I	II	III
①	ア	イ	ウ
②	ア	ウ	イ
③	イ	ア	ウ
④	イ	ウ	ア
⑤	ウ	ア	イ
⑥	ウ	イ	ア



問 3 下線部㉔に関連して、次の文章は、メルロ＝ポンティが、人間の身体は物質としての身体の範囲と異なることがあるとし、道具によって身体が延長される場合について述べているものである。文章中の下線部に相当する具体的な事例として適当でないものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 26

杖が身近な道具となってしまうと、その人にとって触覚的対象の世界は遠くから始まるようになり、つまり、手の表皮まできてはじめて始まるのではなく、杖の尖端<sup>せんたん</sup>までくればすでに始まることになるわけだ。(中略)杖はもはや盲人の知覚する対象ではなくて、盲人がそれでもって知覚する道具である。それは身体の付属物であり、身体的総合の延長なのである。

(メルロ＝ポンティ『知覚の現象学』より)

- ① 自動制御の工作機械によって、人間の手ではできない微細な加工ができる。
- ② 電子顕微鏡を通して、原子や分子の構造を見ることができる。
- ③ 砂利道を歩くと、靴をはいていても、小石を踏みしめている感じがする。
- ④ テレビ電話のおかげで、顔をつきあわせての議論をすることができる。

## 倫理

B 生徒Yは、哲学者の考え方を活用しながら、次のようなレポートを作成した。  
このレポートを読み、下の問い(問4・5)に答えよ。

様々な哲学者たちが自己について論じてきたが、そこには意見の対立も見られる。例えば **a** は **i** と考えたが、それとは対照的に、 **b** は **ii** と考えた。 **a** の言うように「我思う故に我あり」が確實だと感じられるにしても、だからといって、首尾一貫した自己があるとまではいえないかもしれない。実際、私たちの思考や行動は、それをとりまく様々なものに影響され、翻弄される。自己とその環境とは分かちがたく絡み合っているのである。しかし、だからといって、それは自己が不確かだということを意味するわけではない。それどころか、 **あ**。このように、避けられない受動性こそが、かけがえのない自己の基盤となっていると考えることもできるのである。

問4 **a**・**b**には、それぞれ人名が入り、 **i**・**ii**には、それぞれ言葉が入る。次の(1)・(2)に答えよ。

- (1) **a**に入るものとして最も適当なものを、下の人名①～④のうちから、**i**に入るものとして最も適当なものを、下の言葉①～④のうちからそれぞれ一つ選べ。

**a**に入る人名→ **27**

**i**に入る言葉→ **28**

- (2) **b**に入るものとして最も適当なものを、下の人名①～④のうちから、**ii**に入るものとして最も適当なものを、下の言葉①～④のうちからそれぞれ一つ選べ。

**b**に入る人名→ **29**

**ii**に入る言葉→ **30**

### 人名

- ① パスカル      ② ヒューム      ③ デカルト      ④ ロック

### 言葉

- ① 心は白紙である      ② 人間は考える<sup>あし</sup>輩である  
③ 自己は知覚の束である      ④ 思考するものは実体である

問 5  に入る記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 客観的な認識をするためには、状況から独立した主体が必要である。例えば、ハイデガーは、人間は、死に直面することで、自分が日常的な状況に埋没し、本来的な在り方を喪失していたことに気づかされるとした
- ② 客観的な認識をするためには、状況から独立した主観が必要である。例えば、カントは、客観の認識が可能になるためには、主観に感性や悟性の形式が先天的に備わっているのではなくてはならないとした
- ③ 自分のおかれた状況を引き受けることのできるものは自分以外にはいない。例えば、ヤスパースは、人間は、限界状況の中で自分の有限性に直面することで、実存という本来の在り方に立ち返ることができるとした
- ④ 自分のおかれた状況を引き受けることのできるものは自分以外にはいない。例えば、ミルは、人間は、自分に関わる事柄については、他人に危害を及ぼすのでない限り、自分の考えによって決定する権利をもつとした



## 倫 理

- C 生徒Zは、労働による自己実現について次のようなレポートを作成した。このレポートを読み、次ページの問い(問6)に答えよ。

アーレントは人間の基本的な営みには「労働」「仕事」「活動」があるとした。まず、「労働」とは生物としての人間が生きていくために不可欠な営みのことである。次に、「仕事」とは世界の中に作品を作り上げることである。そして、「活動」とは、他の人々と語り合う公的領域に参加することである。アーレントは労働を自然の必然性に従属させられることと捉えた。この捉え方は産業革命期の労働者の状況にもよく当てはまるものであった。それについて、ア。確かに、人間にとって自分の本質的な在り方を妨げられることは苦痛である。これに対して、イ。これは多様な仕方で世界を加工し続ける人間の知性の在り方を表現したものである。新しい商品を開発し、生産することは、社会の在り方を変えていくことにつながる。すると、社会に寄与しようとする営みが人間の本質とも関連することが分かる。例えば、ウ。この考え方に基づけば、人間にとって働くことは、自分の本質を実現することであると解釈することもできる。アーレントが区別した三つの概念は実は互いに関連しあっているのではないだろうか。

問 6  ～  には、次の a ～ f のいずれかの記述がそれぞれ入る。  
 ～  に入る記述の組合せとして最も適当なものを、下の①～⑧  
 のうちから一つ選べ。

- a マルクスは資本主義社会では労働の疎外が生じるとした
- b ウェーバーは禁欲や勤勉などの職業倫理が資本主義を生み出したとした
- c ホイジンガは人間の本質を遊びとみなし、それが文化を創造するとした
- d ボーヴォワールは社会が女性に特定の在り方を強制していると考えた
- e ベルクソンは人間をホモ・ファーベルとみなした
- f ヘーゲルは自己の理想を現実のものとすることを本来の自由と考えた

	ア	イ	ウ
①	a	b	c
②	a	b	f
③	a	e	c
④	a	e	f
⑤	d	b	c
⑥	d	b	f
⑦	d	e	c
⑧	d	e	f

## 倫理

### 第4問 「倫理」の学習のまとめとして行われた課題探究に関わる次の問い(A・B)

に答えよ。(配点 18)

A 生徒Xは、課題探究の準備として次のメモを作成した。これを読み、次ページの問い(問1・2)に答えよ。

#### 【哲学者ロックの言葉】

個々の人間は身体という財産を所有している。本人を除けば、何人もこれに対する権利をもたない。

(ロック『統治論(市民政府論)』より)

#### 【ロックについて学習したこと】

- ・人間は、生まれながらにして自らの生命、自由、財産について<sup>Ⓐ</sup>所有権をもつ。

#### 【この言葉から読み取れること】

- ・自分の身体は「自分のもの」であり、それに介入する権利をもつのは自分だけである。

#### 【疑問に思ったこと】

- ・<sup>Ⓑ</sup>現代社会で生じている諸問題にこの考え方を当てはめてよいのだろうか？
- ・近年の医学や生命科学の進歩が、身体や生命をめぐる問題を複雑にしているのではないだろうか？

問 1 生徒 X はまず、下線部③を主張したロックの思想について復習した。次の a～d をロックによる『統治論(市民政府論)』における説明の順序に従って並べ替えたとき、3 番目にくるものとして最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 33

- a 人々は各自の所有権を安定させるために、契約を交わして政府をつくる。
- b 人が自らの労働によって自然物に手を加えたものは自分のものとなる。
- c 人は誰でも自分の身体を自分の意志に従って用いる権利をもつ。
- d 人は自らの所有権を侵害するような政府に対しては抵抗権をもつ。

① a                      ② b                      ③ c                      ④ d

問 2 生徒 X は続けて、下線部⑤の疑問について考えるために、日本における法整備などの現状を調べた。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 34

- ① 身体は自分に固有なものであるから、本人の意思が確認できなければ、死後であっても移植のために臓器を摘出することは許されていない。
- ② 身体は自分に固有なものであるにもかかわらず、臓器の提供者といえども臓器の提供先について意思を表明しておくことはできない。
- ③ 身体がもたらす苦痛から逃れるために、医師による致死薬の投与など直接死に至らしめる処置を受ける権利は法制化されていない。
- ④ 身体の衰えた部分や損傷した部分の機能を回復させるために、幹細胞を用いた再生医療の技術を用いることは認められていない。

## 倫理

B 生徒Xは、課題探究の成果発表に向けて、次の原稿を作成した。これを読み、次ページ以降の問い(問3～5)に答えよ。

ロックによれば、人間は、生まれながらにして、自分の生命、自由、財産について所有権をもちます。人間の身体はその人に属するものであり、その在り方はその人以外には決められません。この身体の「所有」という考え方は、生命や身体に関わる倫理的課題を考えるうえで重要な「自己決定」の考え方につながっています。

ところが、そもそも、何がどのような意味で「自分のもの」と言えるのかを具体的に考えてみると、様々な疑問が生じてきます。自分の身体は自分の財産と同じような意味で自分のものと言えるのでしょうか。例えば、を前提にするならば、この問いにはイエスと答えられるでしょう。そのとき、身体は、財産と同様に、切り売りや交換が可能なものとみなされるのです。この考え方からは、臓器売買の自由化などの主張が導かれるでしょうが、そうした主張は安易に受け入れられるものではないように思われます。このような身体観を普遍的なものだと言い切ることはできないでしょう。

仮に「自分の身体は自分のもの」という主張を認めるとしても、そのとき同時に、「自分のものだから自分の意のままにしてよい」ことになるのでしょうか。この点を具体的な事例をもとに考えてみましょう。現代では、遺伝子操作などの先端技術を用いて、身体に特定の望ましい性質や能力を与えることが可能になりつつあります。未来の社会では、「自分のもの」である身体を、「自己決定」の考え方に基づいて、各自が望むように改造していくようになるのでしょうか。そうだとしたら、そこには様々な倫理的課題や問題点があるように思います。例えば、。

(以下略)

問 3  に入る考え方として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ  
選べ。

- ① 身体を精密な機械にたとえ、精神と独立した物体とみなす身体観
- ② 身体をか弱い葦あしにたとえ、社会的に保護すべきものとみなす身体観
- ③ 身体を神の創造物とみなし、神と人間との関係において捉える身体観
- ④ 身体を魂ろうこくの牢獄とみなし、そこから解放されるべきものと捉える身体観

問 4  に入る倫理的課題や問題点として適当でないものを、次の①～④の  
うちから一つ選べ。

- ① 遺伝子操作などの新しい技術が人体に与える影響は確定できないので、個人の自己決定に委ねるにはリスクが大きすぎるのではないだろうか
- ② 先端技術を用いて優れた資質や能力を得ることは、努力の価値を失わせ、社会における公正な競争を阻害するのではないだろうか
- ③ 人体の改造のための技術開発が制約なしに進められれば、その技術は軍事などの分野にも転用され他者に危害を与えかねないのではないだろうか
- ④ 先端技術による人体の改造が普及した社会では、自身の能力を際限なく拡張しようとするパターナリズムの傾向が強まるのではないだろうか

## 倫理

問 5 原稿をもとに生徒Xが探究の成果を発表したところ、生徒Yから次のようなコメントがあった。コメント中の下線部について、そのように考えられる理由として適当なものを、下の①～⑤のうちから二つ選べ。ただし、解答の順序は問わない。 

37
----

 ・ 

38
----

生徒Y：生徒Xは、生命や身体についての所有と自己決定の考え方に疑問をもっているんだね。私は環境倫理のテーマで課題探究をしたんだけど、その視点には賛成できる気がするな。生徒Xは発表の冒頭で所有や自己決定の考え方を紹介しているけれど、そのような考え方を、環境や自然との関係にそのまま当てはめたら問題があると思う。

- ① 生徒Xが紹介した所有や自己決定の考え方はその権利の主体を人間に限定しているが、環境倫理を考える際は自然や動物も生存権をもつという視点が重視されるから。
- ② 生徒Xが紹介した所有や自己決定の考え方では理性に基づいて合理的で普遍的な判断をすることが求められるが、環境問題を考える際は感情や共感に基づく多様な視点が重視されるから。
- ③ 生徒Xが紹介した所有や自己決定の考え方は個人と土地などの財産とを一体的に捉えているが、環境問題を考える際は個人を地球環境から独立した存在とみる視点が重視されるから。
- ④ 生徒Xが紹介した所有や自己決定の考え方は現在生きている人の視点に主として基づいているが、環境問題を考える際は未来世代への責任という視点が重視されるから。
- ⑤ 生徒Xが紹介した所有や自己決定の考え方は私有財産の権利を根拠づけているが、環境問題を考える際は私有財産を廃した平等な世界を理想とする視点が重視されるから。

(下書き用紙)